

市民主体に議会の民主的改革を 日本共産党

取手市議会 2月17日臨時市議会

選挙後・早速問われる議会の民主主義

1月26日行われた市議会議員選挙で、多数激戦を勝ち抜いた新人5人と現職19人合わせて24議員の任期（2月15日から4年間）による新しい議会が始まります。17日に開かれる臨時議会で、議長をはじめ各種委員会委員長・一部事務組合議会議員等の機構と人事が決定されます。多様な市民からの負託に応え、市民福祉の向上に寄与する公正・公平・民主的な議会の運営、組織の在り方が求められます。

議会だより「ひびき」廃止 ウェブ版に移行

市ホームページ1月15日更新記事に、紙ベースの議会だより「ひびき」は廃止、パソコンやタブレット、スマートフォンなどで見るウェブ版議会だよりに変更、「ひびきは、市ホームページでご覧を」と呼びかけ、パソコンなど利用できない市民には、市議会概要版を公共施設等に配置。新聞折り込みは行わず、希望者には郵送などで届けるとしています。

議会電子化の財源は 市民への情報削減で

「ひびき」廃止は、①新聞読者の減少 ②インターネット利用環境が整っている ③市の財政負担軽減などを理由に、議会運営委員会での協議・検討の結果としています。財政に関する議論の中で、議員のタブレット使用の費用は、「議会だより「ひびき」の廃止で賄う」と、昨年12月12日開催の議会運営委員会では、多数決（共産党、無会派クラブは反対）で決定しました。

議会基本条例を蹂躪 する議会広報の削減

取手市議会の最高規範とする基本条例では、第5条で「議会は、議会活動に関する情報を積極的に公表・・・」とし、第20条（議会広報の充実）で「議会は、議会だより、市議会ホームページなどの多様な広報手段を活用し・・・議会広報活動の充実強化に努める・・・」としています。「ひびき」の廃止は、議会基本条例をも蹂躪するものです。

日本共産党は、「ひびき」廃止は開かれた議会、議会改革」とは真逆であり継続を求めます。

2020年2月12日
日本共産党市議会議員団

新しい議会の任期の始まりにあたって

先の市議会議員選挙で、全員の議席を確保させて頂きました。皆様の温かいご支援ご協力ありがとうございました。

加増みつ子・遠山ちえ子・関戸勇・小池えつ子4人の日本共産党議員団は、①市民の意思を代表し、②条例・予算の議決など行政の基本を決める、③公正で民主的行政へ執行機関を監視する。など議会の基本的役割を発揮する公正で開かれた議会へ、決意を新たに、選挙で掲げた公約の実現に全力を尽くします。

選挙後初の臨時市議会前、共産党議員団は、議会だより「ひびき」の継続発行等議会の真の民主的改革を提案。選出された全議員に送付し提案の検討を呼び掛けました。

広がる“公立保育所守れ”のこえ・・・戸頭地域

昨年11月取手市の第4次保育所整備計画（案）の公表で突然浮上した戸頭北保育所廃止・藤代中央保育所民営化計画。

取手市・藤代町合併直後には11あった公立保育所は、藤井市政の下で6か所に、4次計画でさらに2か所減らす計画です。

戸頭地域で父母や地域のみなさんから

若い世代が安心して働き子育てできる街を

公立保育所守れの声が広がっています。

若い世代が安心して働き続けることができ、健やかな子どもの保育の為に市が責任をもって運営・管理する公立保育所が身近にあることは、子育て世代の励みです。老朽化した保育所は建て替え改修、待機児童をゼロにすることこそ市が行うべき子育て支援です。

戸頭北保育所の保護者は不安でいっぱい

「卒園までいられるかしら」「上の子と下の子で違う保育所になったらどうしよう」

「北保育所は駅近で立地がいいのに」「とにかく困る!!廃止してほしくない」



戸頭北保育所

・・・地域の方々の声・・・

- 「えー!! 公立保育所をなくしちゃダメでしょ!」
- 「12あった公立保育所が4になる?それはない!」
- 「北保育所は昔ながらの保育所でホッとする。うちの子も3人通った。なくしてほしくない」
- 「若い人が来なくなるよ。取手市はそれでいいの?」
- 「署名とかやるなら協力するよ」
- 「待機児童がいるのに、保育所を減らすのはどういうこと?」

安心して子育てできる地域と社会をつくるためにも、公立保育所を守る運動を進めましょう・・・保護者・地域・市民が力を合わせて

市民と野党の共闘 野党連合政権で
希望をひらく

日本共産党

春のつどい

2月22日(土)
午後1時30分開場・2時開会
取手福祉会館 3F講座室AB
国会報告：参議院議員 山添 拓
ご挨拶：市議会議員 加増みつ子・遠山ちえ子
関戸 勇・小池えつ子
ミュージックタイム
ナマ伴奏でみんなでおおう

ウソとごまかし 安倍首相はアウト！ 野党連携で首相追い詰め 国政の基本問題で論戦



2月5日国会内で開かれた野党国対委員長連絡会
左から3人目が穀田恵二氏、右端が塩川鉄也氏

1月20日から始まった国会、予算委員会で日本共産党は「桜を見る会」問題の追及とともに、雇用や消費税増税、大学入試改革、新型コロナウイルス問題など国の基本問題で、政治の転換を求めています。

安倍首相の「桜を見る会」の私物化疑惑をめぐって、野党の追及に首相は答弁拒否、はぐらかし、ウソとごまかし、資料提出の拒否など、説明ができなくなっています。その上、カジノをめぐる汚職で利権や癒着の構造が明らかになって来ました。

9条改憲に固執する安倍首相が「私自身の手で成し遂げていく」と繰り返し表明する中で、あらたに新型肺炎の感染広がりを受けて、自民党幹部などから憲法に「緊急事態条項」を新設し、緊急時に国民の権利を制限する改憲の議論が浮上。野党は国会対策委員長連絡会でさらに連携を強化して安倍内閣追及を確認し、結束をはかっています。

プラ容器収集・4月から隔週に削減 懸念される分別・リサイクル低下

広報とりで・2020年2月1日号に、4月からのごみ収集変更について掲載されました。変更は、毎週のプラ容器収集を隔週とし、第2、4土曜日の古紙類の収集を、水曜日に移動変更するものです。現在迄、常総広域事務組合参加の常総、つくばみらい、守谷、取手の各市が毎週プラ容器の収集を行っている中で、4月からの取手市のプラ容器収集回数の減少は、分別・リサイクルごみ行政の低下につながる危険が心配されます。

「プラ容器収集変更」の説明会

2月9日、藤代公民館で行われた説明会で、市は「昨年10月実施した市民アンケートの中で、プラ容器を「毎週出す人」46%に対し、「毎週出す人以外」の割合が51%であった。プラ容器の収集量は不燃ごみの4分の1に満たない」として、4月からプラ容器の収集回数を2週間に1回にすると説明しました。

資源を減らしゴミふえる懸念が

説明会参加者からは「プラ容器を分別せずに不燃物に入れることになるのでは」「リサイクルの必要性を理解してもらうこと、不燃物を減らすこと」の努力が必要」「場所によっては不燃物より、プラ容器が多い」など意見・質問が上がりました。

常総環境センター



東海第2再稼働の是非は県民の意思で 県民投票実現にあなたも受任者に



「いばらき原発県民投票の会」呼びかけ
県民投票実現へ

署名必要数の2割超え1万452筆
(1月24日現在)

署名期限取手は3月28日まで

東海第二原発（東海村）の再稼働の是非を問う県民投票を求める「いばらき原発県民投票の会」は4日、住民投票の条例制定を求める署名が先月24日時点で1万452筆集まり目標の2割に達したと発表しました。

有権者の50分の1以上にあたる約4万9千筆の署名で、知事に対して条例制定の直接請求ができ、6月の県議会での条例案上程につながります。

署名期間は3月6日までですが、選挙のある自治体は中断されるため、取手市では1月27日から3月28日までが期限でこれからが本格的な運動になります。守谷、つくばみらいも始まりました。

日本共産党も市民団体の取り組みを積極的に支持し、県民投票実現に努めます。

“県知事は再稼働に同意するな”の 意見書提出を求める請願 - 市議会へ

3月取手市議会に向けては「反原発取手駅前金曜行動委員会」と「戦争させない・9条壊すな！総がかり取手行動実行委員会」が、大井川知事に対し「東海第2原発再稼働に同意しないことを求める意見書提出に関する請願」署名も併せて行っています。

上記2団体は、反原発取手駅前行動などで取り組むとともに、広く市民に署名への協力を呼び掛けています。

プラ容器の収集業務の削減は、ごみ分別を奨励し資源化を進めるべきごみ行政の役割を低下させることになるのでは、と説明会参加者からの批判が相次ぎました。

安倍改憲 NO！・安倍内閣退陣！ 改憲発議に反対する取手集会

集会後「改憲発議に反対する全国緊急署名」行動を行います。

2月19日（水）

午後3時 取手駅東口広場



戦争させない9条壊すな！
総がかり取手行動パート 32